

## 第10回コンクリート技術研修会

日時：2019年9月20日(金)13:00～17:00

場所：サンピアセリーズ 高知市高須砂地 155

主催：高知県コンクリート診断士会

共催：(公社)高知県土木施工管理技士会

後援：(公社)日本コンクリート工学会 四国支部

参加者：124名

	<p>挨拶：原田 隆敏 高知県コンクリート診断士会会長</p> <p>関係各位また講師陣のご尽力により、第10回の研修会を開催することができました。コンクリート構造物の品質確保における表層品質評価については、山口県から始まり、近年では東北地整備、群馬県当にも波及してきており、益々コンクリートの品質がクローズアップされています。</p> <p>本年度も第一線で活躍されている講師陣を招いての研修会となっております。研修会で得られた情報を各参加者の実務にお役に立ててもらえれば幸いです。</p>
	<p>【講演Ⅰ】 『高知県のコンクリートについての留意点』 松井 伸一 高知県土木部技術監理課技査</p> <p>コンクリートの表層品質については、山口県をはじめ群馬県等において、施工管理時と型枠脱型時にチェックシートを用いて評価しており、高知県においても勉強会に職員を派遣し知見を深めている。県においては以前から高知県版の仕様書を利用して品質管理を実施しており、一定の成果が認められている。今後は山口システムのような高知県版のデータベース化が整えられるよう努力したい。</p>
	<p>【講演Ⅱ】 『コンクリートに関する調査検討内容の中間報告について』 金滝 和彦 国土交通省四国地方整備四国技術事務所副所長</p> <p>四国地区のNATM工法により施工されたトンネルの調査報告が行われた。整備局でも施工と表層品質のチェックシートを用いて評価を行っている。特に覆工コンクリートでは単位水量および養生方法が品質に与える影響が大きい。</p> <p>フライアッシュの有効利用については、流動性の向上、単位水量の減少など確認され、今後普及に努めたい。</p>



**【講演Ⅲ】**

『コンクリート構造物の長寿命化策』

十河 茂幸

近未来コンクリート研究会 代表

コンクリートの寿命は適切に施工管理された物は 100 年程度の耐久性を有している。既設の構造物を解体し再利用するには、大変なエネルギーを消費するので、長寿命化することが環境負荷低減にもつながる。

コンクリートの診断については、予防保全と事後保全に大別でき前者では長寿命化を後者では安全性を主として、各対策を行う。調査は劣化原因を絞りこみ安価に行うことが望ましい。補修・補強（調査を含む）は的確に処方箋が出せるコンクリート診断士を活用することが有効である。

会場写真

